

週報

2007年 2月 18日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》今朝の聖書箇所は、ルカ9~17です。全ての福音書が記録しています。今朝の箇所のちょっと前を見てみましょう。“ある人たちは、ヨハネが死人の中からよみがえったと言い、またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの人たちは、昔の預言者のひとりが復活したのだと言っていたからである。(9:7)”とあります。イエス様の行なったことや弟子達のことを世の中に波紋を起していたことが判ります。現代的に言えば、情報が錯そうしていたようです。多くの声の中でイエス様の声を聞くことの大切なことが判ります。ですからイエス様は“彼ら(弟子達)を連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。(9:10)”のでしょう。私たちもまず御声に聞きましょう。11節に“これ(群衆)を迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人々をいやされた。”とありますが、癒された人々は、神の国について聞いているのです。奇跡も癒しも、神の国と関係を持っているのです。この場所はピリポの領地で、“収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである。(10:2~3)”という言葉の“狼”はこのことを示しています。イエス様は“人々を五十人づつに分けなさい”と言われます。弟子達の働きのためにそのように仰っているのです。五千人の群衆を前にしたのでは、誰でもびっくりしてしまうでしょう。しかし、グループに分ければ、そんな感じはなくなるかもしれません。私たちの知っている教会で“組会”とか“セルグループ”という言葉が聞かれます。会員数の多い教会では、このような方法をとらなければ、全ての人々に行き届いた、弟子としての働きはできないことを教えておられるのです。群衆に配るのは私たちです(16節)。五十人が難しかったら、半分の二十五人なら配れるかもしれません。そして十分に行き渡らせることが出来るのです。この箇所は弟子としての働き方を教えて、励まし、全ての人に救いは十分である、と、全てのクリスチャンに示された箇所です。